

令和7年度 府立北嵯峨高等学校 学校経営計画（スクールのマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>「独創質実（何事も自ら考え、主体的に判断し、真摯な態度と素直なところで行動する。）」の校是の下、高校生活の限られた時間の中、集中力と工夫により学習と部活動の両立を実践し、「人を育て、心を育む」教育を目指す。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 規律ある生活により、学力・体力・情操の向上を図る。 2 科学的認識を養い、創造性と実践力を育てる。 3 保護者・地域との連携を深め、生徒の進路についての願いを実現することに努める。 4 地域の歴史と文化遺産に対する理解を深め、その文化を守り育てる力を養う。 	<p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、授業改善に努めた。 (2)3年間を見通した進路指導と進路学習計画の見直しを行った。 (3)ICTの活用が積極的に進められた。HPを活用した学校情報の発信もできていた。 (4)交通安全啓発や交通マナー向上のための取組を実践した。 (5)図書委員会活動や教科指導により、生徒の読書活動が活発化した。 (6)いじめ根絶に向けて、組織的に迅速かつ丁寧に対応できた。 (7)Teamsを活用してタイムリーな生徒情報の共有に努めた。 (8)青空図書館の企画、ライブラリー commons の設置等、新しい取組実践し、生徒の読書意欲向上を図った。 (9)創立50周年事業が、本校の環境や人材を最大限に活かした北嵯峨らしい充実したものとなり、大成功であった。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)家庭での自主学習にはあまり取り組めていない。自主的・自発的な学習習慣の定着を図る指導を推進したい。 (2)ICTの効果的な活用についてさらに研究を進めたい。スタディサブリの活用もさらに進める。SNSを活用して学校の魅力を発信したい。 (3)生活規律の確立に向けて、個に応じたアプローチで引き続き全教職員で粘り強い指導が必要である。 (4)交通マナーの指導を引き続き徹底して行う。 (5)学力向上に向けた講習・補習の在り方について引き続き検討する。 (6)教育相談会議のあり方を見直し、支援体制を構築する。 (7)生徒および教職員の危機管理能力と意識を高められるような取組を実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 観点別評価とICT機器の活用推進 日々の授業において学習内容を生徒が自ら学び身につけようとするための効果的な授業のあり方を研究し推進する。教員と生徒がともに授業をつくる意識を育む学習評価とICT機器の活用を促進する。 2 部活動、特別活動の充実と発展 心身共に成長し多感な時期の高校生にとって、豊かな人間性の育成を目指す上で部活動や特別活動が果たす役割を大切に、生徒が互いを気遣い切磋琢磨しながら「強い北嵯峨」を目指して活動するように支援する。 3 人間関係構築力の育成と個に応じた対応 集団の中で良好な人間関係を構築できるようになるために、生徒個々が置かれた状況を把握しながら、教職員が協調して生徒に自己決定の場を与え、自ら世界を広げようとする意欲の育成を図る。 4 嵯峨・嵐山の教育資源の積極的な活用 歴史と伝統を身近に感じることのできる恵まれた学習環境の中で校内にとどまらず周辺の自然や文化財、教育施設などの教育資源を積極的に活用して、地域とともに魅力ある教育活動を展開する。 5 創立50周年を経て次の四半世紀を展望 半世紀の時間をかけて醸成されてきた本校の校風をふまえたスクール・ミッションの実現を図るとともに、次の四半世紀で目指すべき本校の姿を模索する。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
学習指導	生徒一人ひとりが自ら考え、学びに向かう力を育む授業を目指す。教員と生徒が双方向で学び合い、主体性や思考力を高める学習環境づくりを進める。	観点別評価を明確に示し、生徒が目標を意識して学べるようにする。さらに、ICT 機器を活用して意見交換や調べ学習を取り入れ、協働的な授業を展開する。		
	地域の歴史・文化・自然に親しみながら、教室を越えた学びを実現する。身近な環境を教材とし、生徒の探究心や社会性を育てる学習活動を推進する。	嵯峨・嵐山地域の自然や寺社仏閣、地域の商店街などを活用し、体験型の校外学習を行う。地域交流やフィールドワークも取り入れ、主体的な学びを深める。		
生徒指導 特別活動	生徒自身が主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択、設定をして、この目標の達成のため、自発的、自律的に自らの行動を決断し、実行できるようにする。	法律や校則を守るという規範意識を高める。自己有用感や自己肯定感を高め、自己存在感を感じさせる。自他の個性を尊重し、相手の立場に立って考え、行動できる相互扶助で共感的な人間関係を築く。これらを通して、自己指導能力を育成する。		
	生徒会や部活動を活性化し、地域の教育資源を活用しながら生徒の主体性・社会性を育成する。	生徒会や部活動を奨励し自らを研鑽する姿勢と豊かな人間関係を獲得するとともに、地域の活動に主体的に参加することで社会性やボランティア精神による豊かな人間性の育成を目指す。		
進路指導	生徒一人一人の希望進路の実現に向けて、教職員が一体となり進路指導を行う体制を構築する。3か年を見据えた取り組みを充実させ、生徒のキャリア意識の形成と自己実現を図る。	生徒の学力状況・学習状況・進路希望をデータに基づいて客観的に分析し、自学自習の確立とともに、学力の向上と進路目標達成のための情報提供や指導体制を整える。		
		キャリア教育を充実させ、校内外の連携のもとで生徒の進路意識の向上を図りながら、適性と希望に沿った生徒の可能性を広げる進路の達成に努める。		

人権教育	人権問題を正しく理解させ、いじめの根絶を図る。	あらゆる教育活動に人権の視点を入れ、同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決や、いじめ等の未然防止のための意識を高め態度を育成する。				
健康・安全 教育	配慮を要する生徒に対して、教育相談会議を充実させ組織的対応の推進を図る。	日常の生徒観察を重視し、担任や教科担当者等との情報共有を図り生徒の状況を適切に把握するとともに、早期対応に努める。教育相談・関係機関・SC・SSW と連携しながら、生徒への支援を適切に行う。				
	教育環境づくりを推進するとともに、環境保護及び保健衛生の意識を高める。	日々の清掃活動を徹底し学校の環境整備を通じて、美化意識・公共心を養い、良好な学習環境を自ら作り出せる力を養う。				
図書館指導	図書館を活用した指導を充実させ、生徒にとって居心地がよく、新しい時代に適応した図書館を目指す。	教科との連携を通じて生徒の読解力向上を目指す。読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにする。ICTの活用も含めた図書館活動のあり方を研究する。				
安全管理 情報・文書	安心・安全な教育活動の実践のため、適切にリスク管理を行う。	危機管理マニュアルの見直しおよび研修や訓練等の実施により、生徒・教職員の危機管理能力を高める。				
	ICT 活用の拡大に適切に対応し、生徒・教職員の情報モラルやセキュリティ意識の向上を図る。	多様な個人情報適切に管理するためのルール作りや専門家による講演会の実施などを通して、情報管理体制の充実と情報モラルおよびセキュリティ意識の向上を図る。				
家庭・地域 社会との連 携	本校の特色や魅力を、保護者や地域の方々に広く知っていただくような広報活動に努める。	ホームページや公式 Instagram の更新を積極的に行い、行事だけでなく日常の様子についても発信する。学校説明会等の情報発信を通して、中学校との連携もさらに深める。				
	授業やボランティア活動等を通して、地域とのつながりを深め、地域に貢献できる学校を目指す。	総合的な探究の時間など、地域の文化や歴史的価値を活用した授業を充実させ、地域への理解や愛着を育む。学校運営協議会や PTA と連携を密にし、地域から信頼される学校づくりに努める。				